

令和2年度 第2回 羽島市立図書館協議会会議要旨

日 時	令和2年10月28日(水) 午後1時30分～午後3時20分
場 所	図書館2階研修室
出席者	<p>【令和2年度図書館協議会委員】任期：令和2年5月1日から2年</p> <p>図書館協議会委員長 坂田 田壽子 (家庭教育関係者) 図書館協議会副委員長 鈴木 知温 (社会教育関係者) 図書館協議会委員 小川 和彦 (学校教育関係者) 図書館協議会委員 森田 恵子 (社会教育関係者) 図書館協議会委員 柳川 禎章 (学識経験者) 図書館協議会委員 近藤 栄美子 (学識経験者) 図書館協議会委員 赤地 奈津美 (市民公募者)</p> <p>【市関係者】</p> <p><教育長> 森 嘉長 <事務局長> 不破 康彦 <図書館長> 安田 圭祐 <図書係主査> 川上 行洋 <総務係主任> 吉田 敏也</p>
内 容	<p>・7名の委員の半数以上の出席により、会議の成立を報告する。</p> <p>・委員長に坂田委員、副委員長に鈴木委員を選出する。</p> <p>1 委員長挨拶</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止策について</p> <p>— 資料に基づき報告 —</p> <p><委員> 接触頻度の高い箇所の消毒を行うとのことだが、具体的にはどういった場所か。</p> <p><事務局> まず受付カウンター、それからドアノブ、閲覧室やレファレンス室の机、新聞雑誌コーナーの椅子などである。</p> <p><委員> コロナウイルスの影響で自習の場所が確保しづらくなっているという話をよく聞く。図書館での自習は本来の利用の仕方ではないと思うが、何か対応できないか。</p> <p><事務局> 実際に自習について問い合わせをいただくこともあるが、現在はコロナウイルスの感染対策のため長時間の滞在はご遠慮いただいている。他の市町も同様に時間を制限して利用していただいている。当館以外に、</p>

岐阜市、各務原市、瑞穂市などの図書館でも時間制限だけでなく、さらに自習はできないとホームページで案内している。閲覧室を時間制限なしで利用していただけるのはまだ先になると思われる。

<教育長> 現在でも毎日大変多くの方が出入りする施設であることからコロナウイルスの対策を優先させ、滞在時間に制限を設けている。学習場所の確保という要望については承知している。

(2) 第15回手づくり絵本コンクールについて

— 資料に基づき報告 —

<委員> このコンクールは市独自で行っているのか。

<事務局> 市独自のもので県内では当市だけである。

<委員> 学校ごとに応募数に違いがあるのはなぜか。理由は把握しているか。

<委員> まず年によって数にばらつきがある。指導する先生の存在や、クラブ活動としての位置づけといった要因が考えられる。以前に応募された保護者の方がまた家庭で取り組んでいただいているのではないかと。保護者のサポートもあると思うのだが、レベルの高い作品を作っていただいている。伝統という部分もあるかもしれない。詳細な要因までは分かりかねる。

<委員> 表彰は金、銀、銅、入選という形だったが、表彰の形を変えてはどうか。審査に携わらせていただいたが、部分、部分で優れた作品もあった。特別賞のようなものがあるとういのではないかと。

<委員> たくさんの素晴らしい作品に応募していただき審査の難しさを感じている。賞の在り方についても検討が必要かと思うが、子どもたちの制作に対する意識やこのコンクール自体がどうあるべきかといった部分にも関係してくるので慎重な対応が必要である。

<委員> 絵が優れている、ストーリーが優れているというような審査の方法もあるのではないかと。

<委員> どの部分を評価するかで審査結果も変わってくる。入選作品に幅を持たせる、あるいは先ほど言われた特別賞のような形で審査に反映できるといいと思う。

<委員> 絵本コンクールをどういった方向で進めていくのか考える必要があるのではないかと。夏休みの課題と考えても、宿題は学校の学習の延長として出されるものなのでそちらが優先される。コンクール自体も、一方では県や全国につながっていくコンクールもある。

<教育長> 少し事務局の補足をさせていただくが、各学校には大変多くのコンク

ールの募集が来る。ものによっては授業で取り組む場合もある。ただ、この絵本コンクールに授業として取り組むのは時間数的にまず難しい。委員指摘の通り、学校として取り組むというより、個人で自由に応募する、当然賞を目指す子もいると思うが、自分で絵本を作ったということ、また制作過程での家族や友達との会話に意味がある。審査についても多様な対応ができるとよいと考えている。

<委員> 募集はいつからか。

<事務局> 夏休み前に募集を行い、案内チラシを児童全員に配布している。

<委員> 応募期間を延ばすことはできないのか。

<事務局> 準備、審査にある程度時間が必要である。例年、図書館まつりで表彰式を行っており、これ以上期間を延ばすのは難しい。

<委員> 今後のために参加者の増減の分析も必要ではないか。

<委員> 増減の主な要因としては、学校の夏休みの宿題の出し方が変わったこと、夏休み期間が短くなったことなどが考えられる。作品の応募数については、審査のことも考えるとこの位が適正ではないかと思う。

(3) 令和元年度事業の報告について

— 資料に基づき報告 —

(4) 令和2年度事業の状況について

— 資料に基づき報告 —

(第15回手づくり絵本コンクールについて)

<委員> 手づくり絵本コンクールについて、表彰式だけでも行うことは出来なかったのか。入賞の子とその保護者の方、あとは主催者の方というような制限を設けて行うやり方もあったのではないか。

<事務局> 当初そういった形も検討したが、入賞者の子15人、その保護者の方を合わせて30人、そこに主催者を含めるとそれだけで40人弱になってしまう。この人数が研修室に集まるというのは難しい。今年は学校を通して賞状と記念品をお配りしている。表彰も学校を通して行うということをお願いしている。

<委員> これは意見としてだが、入選の子を除いた、金、銀、銅の賞の子だけでもこういった場所で表彰できると良かったのではないか。

(新型コロナウイルス感染症への対応について)

<委員> 赤ちゃんタイムとおはなし広場について、当分の間、中止とのことだが、今年度は中止ということか。

<事務局> 当館のおはなしコーナーは小さな個室で、狭い空間に30人から40人が集まるという形である。この状況下では、現在のところ年度内の再開は難しい。

<委員> コロナウイルス感染症の拡大防止のため、施設利用の一部中止やサービスの制限というのは仕方がないと思うが、利用者の方から苦情や意見などはないか。

<事務局> 苦情は特にない。やむを得ないと理解していただいているようである。コロナウイルスの影響で来館者の人数自体が減っている。当館としても、貸出冊数を10冊から15冊へ増やす、貸出期間を2週間から3週間へ延ばすといった変更を行っている。

<委員> トラブルはなかったか。

<事務局> トラブルも特になかったが、入館時に連絡票の記入を拒む方がみえた。あとは自習できるところはないか、研修室で自習はできるかという問い合わせがあった。密を避ける取り組みとして、これまで開館時間の返却はカウンターで行うことを原則としていたが今日のコロナウイルスの影響を踏まえ、返却ボックスの利用を24時間に変更し案内のチラシも貼っている。実際、来館されても中には入らず返却ボックスで本を返していく方もみえる。

4 その他

・令和元年度の図書館の利用状況について

— 資料に基づき報告 —

(区分別の貸出冊数について)

<委員> サバイバルをテーマにした本が人気のようだが、本の分類としては歴史や自然科学、技術工学と分散している。こういうものなのか。

<事務局> 日本十進分類法に基づき行っている。サバイバルだからということではなく、内容に応じて分類されている。

5 閉会